

新学習指導要領の実施に伴う 移行措置をとりとえるために

兵庫教育大学学長・中央教育審議会副会長
梶田 叡一

6月13日移行措置が告示されました。3月28日に告示された新しい学習指導要領は、小学校では平成23年度から全面实施となります。本告示はその移行期間（平成21、22年度）における基本方針です。梶田叡一先生に、移行期間にはどんなことを根本にとらえて、何をどうすればよいかを示していただきました。

養つことを目指します。この「確かな学力」を養つ上でいちばん大事なのが「言葉の力」です。つまり、「言葉の力」を身につけ、それに支えられた「確かな学力」を各教科で育成していく、そしてそれをふまえた「生きる力」を育成するといったわけです。

今回の学習指導要領改訂を再確認すると、移行措置内容について述べる前に、今回の学習指導要領の改訂のねらいをおさえておくことが大事です。このねらいを速やかに実現するための方策が移行措置なのです。

改訂の基本的な考え方 「確かな学力」を土台に、「生きる力」を

今回の新しい学習指導要領のねらいを再確認すると、まず根本は、「確かな学力」を育成し、それを通じて「生きる力」を養つということです。

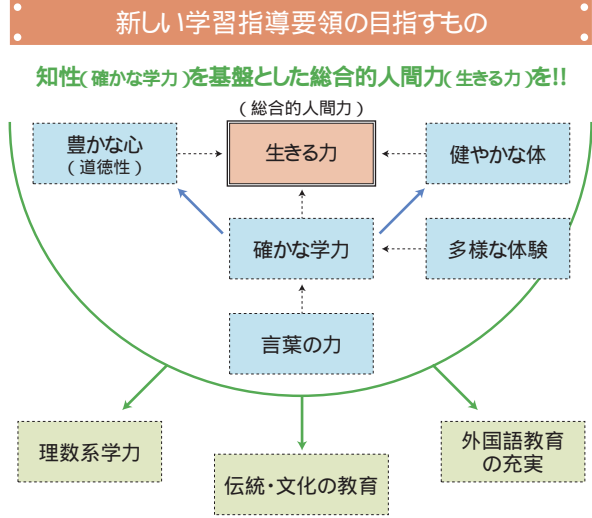
「確かな学力」を確立することが根本です。そして、「確かな学力」を土台にした総合的な人間力としての「生きる力」を



梶田 叡一
かじた えいいち*1941年松江市生まれ、米子市で育つ。文学博士。京都大学文学部哲学科卒業。国立教育研究所主任研究官、大阪大学人間科学部教授、京都大学教授、京都ノートルダム女子大学学長などを経て、現職。

「生きる力」と対称的なところにおいていたわけです。「だから、勉強ばかりしていてもだめですよ」「たくさん知識を得てもどうにもなりませんよ」という「アン」が、安直に広まったように思います。

今回の改訂では、勉強を通じてしか「生きる力」は養われないととらえています。ものを知らないで、ものを考えなくて、いろいろなことを理性的に判断できなくて、「生きがよい」というだけでは、動物と一緒です。「生きる力」は、人間的総合



力です。人間的総合力は、土台に知性、理性がなければなりません。知識基盤社会においては、そういう人間力が必要だとわっていますが、実は時代がそうだからというだけでなく、そもそも人間はホモ・サピエンスなのです。人間が人間であるというのは、知性があり、また知性に支えられた理性があるからです。「サピエンス」があるからなのです。

「生きる力」の土台には、「確かな学力」が不可欠です。その「確かな学力」を育てるには、「言葉の力」が大事になるのです。この3つの大きな中核的事項をしっかりと理解したいものです。

ポイント 1
理数系学力の強化

内容的には、理数系学力をつけるのが、1番目の課題です。過去30年、3回の学習指導要領の改訂で理数系の内容が削られてきました。このため、先進諸国に比べて理数系の内容も水準も見劣りするようになってしまいました。このままでは日本の科学技術の未来が危

うされます。国際的に太刀打ちできるようにするには、最低限、先進諸国に負けない理数系の内容と水準を回復しなければなりません。今回の改訂は、この意味での回復措置と言ってもいいでしょう。

ポイント 2
伝統や文化に関する教育の充実

2番目に、伝統文化教育の充実です。戦後63年、日本の伝統文化を知らない世代が育っています。『ユイイヤスタロツチの教育論』は勉強していても、本居宣長の『つひ山ぶみ』、貝原益軒の『和俗童子訓』、中江藤樹の『翁問答』など、日本の優れた教育論に目を通して、教師は少なくなっています。

日本は、2000年にわたって独自の文化をはぐくんできたものです。先人の苦労してきたものをふまえて未来にどう生かすかが課題です。世界の文化遺産の良いところを吸収しながら新しいものをつくり上げていく必要がありすが、「脚下照顧」

がまずなければなりません。もちろん、伝統や文化に関する教育の取り組みは少しずつ進められてきていますが、改めて大きな課題意識として示したわけです。具体的内容としては、小学校国語科からの古典、社会科での歴史学習、音楽科の和楽器などの指導を充実させています。

ポイント 3
外国語教育の充実

3番目に、外国語(英語)教育の充実です。中国・韓国・ベトナムなどに行くと、その国の言葉がわからなくても小学生と英語で話ができます。中国語、韓国語、ベトナム語を知らなくても英語で「コミュニケーション」ができるのです。現代の英語は、ローマ帝国におけるラテン語の役割を果たしているわけです。英語が共通語になってきていることを、重く受けとめ、これからは英語を大事にしなければなりません。

ポイント 4
道徳教育の充実

4番目は道徳教育の充実です。いままでの道徳教育はこれで



資料1 移行措置期間中の小学校の標準授業時数について

現行(平成20年度)							移行措置期間(平成21・22年度)							新課程(平成23年度以降)												
教科等	学年	1	2	3	4	5	6	計	教科等	学年	1	2	3	4	5	6	計	教科等	学年	1	2	3	4	5	6	計
国語		272(8)	280(8)	235(6.7)	235(6.7)	180(5.1)	175(5)	1377	国語		272(8)	280(8)	235(6.7)	235(6.7)	180(5.1)	175(5)	1377	国語		306(9)	315(9)	245(7.7)	245(7.7)	175(5)	175(5)	1461
社会		—	—	70(2)	85(2.4)	90(2.6)	100(2.9)	345	社会		—	—	70(2)	85(2.4)	90(2.6)	100(2.9)	345	社会		—	—	70(2)	90(2.6)	100(2.9)	105(3)	365
算数		114(3.4)	159(4.4)	150(4.3)	150(4.3)	150(4.3)	150(4.3)	869	算数		136(4)	175(5)	175(5)	175(5)	175(5)	175(5)	1011	算数		136(4)	175(5)	175(5)	175(5)	175(5)	175(5)	1011
理科		—	—	70(2)	90(2.6)	95(2.7)	95(2.7)	350	理科		—	—	90(2.6)	105(3)	105(3)	105(3)	405	理科		—	—	90(2.6)	105(3)	105(3)	105(3)	405
生活		102(3)	105(3)	—	—	—	—	207	生活		102(3)	105(3)	—	—	—	—	207	生活		102(3)	105(3)	—	—	—	—	207
音楽		68(2)	70(2)	60(1.7)	60(1.7)	50(1.4)	50(1.4)	358	音楽		68(2)	70(2)	60(1.7)	60(1.7)	50(1.4)	50(1.4)	358	音楽		68(2)	70(2)	60(1.7)	60(1.7)	50(1.4)	50(1.4)	358
図画工作		68(2)	70(2)	60(1.7)	60(1.7)	50(1.4)	50(1.4)	358	図画工作		68(2)	70(2)	60(1.7)	60(1.7)	50(1.4)	50(1.4)	358	図画工作		68(2)	70(2)	60(1.7)	60(1.7)	50(1.4)	50(1.4)	358
家庭		—	—	—	—	60(1.7)	55(1.6)	115	家庭		—	—	—	—	60(1.7)	55(1.6)	115	家庭		—	—	—	—	60(1.7)	55(1.6)	115
体育		90(2.6)	90(2.6)	90(2.6)	90(2.6)	90(2.6)	90(2.6)	540	体育		102(3)	105(3)	90(2.6)	90(2.6)	90(2.6)	90(2.6)	567	体育		102(3)	105(3)	105(3)	105(3)	90(2.6)	90(2.6)	597
道徳		34(1)	35(1)	35(1)	35(1)	35(1)	35(1)	209	道徳		34(1)	35(1)	35(1)	35(1)	35(1)	35(1)	209	道徳		34(1)	35(1)	35(1)	35(1)	35(1)	35(1)	209
特別活動		34(1)	35(1)	35(1)	35(1)	35(1)	35(1)	209	特別活動		34(1)	35(1)	35(1)	35(1)	35(1)	35(1)	209	特別活動		34(1)	35(1)	35(1)	35(1)	35(1)	35(1)	209
総合的な学習の時間		—	—	105(3)	105(3)	110(3.1)	110(3.1)	430	総合的な学習の時間		—	—	95(2.7)	100(2.9)	75-110(2.1-3.1)	75-110(2.1-3.1)	345-415	総合的な学習の時間		—	—	70(2)	70(2)	70(2)	70(2)	280
外国語活動		—	—	—	—	0-35(0-1)	0-35(0-1)	0-70	外国語活動		—	—	—	—	0-35(0-1)	0-35(0-1)	0-70	外国語活動		—	—	—	—	35(1)	35(1)	70
合計		782(23)	840(24)	910(26)	945(27)	945(27)	945(27)	5367	合計		816(24)	875(25)	945(27)	990(28)	980(28)	980(28)	5576	合計		850(25)	910(26)	945(27)	980(28)	980(28)	980(28)	5645

注: ()内は適当なコマ数
は現行と異なる部分
は移行措置期間と異なる部分

よかつたのだからとかとの反省があり
ます。若者がとんでもない事件を起こし、毎日のようにコースになつていきます。小・中・高校生で、はじめのついていない子が多く、自己中心性、悪い意味での個人主義が入り込んでいます。みんなで共同体をつくりたいこととする共同性や社会性も身につけていけません。そのため道徳教育のあり方を抜本的に見直すとしていきます。

世の中の決まりを守っていくのが道徳だという矮小化された発想が一部にあります。けじめがつかないとか、社会性がないといつと、すぐに規範を教えなければいけないといった、規範意識一本でいくような道徳性が主張されますが、それではうまくいきません。規範意識というのは自分と社会との関係だけに偏っているからです。

日本では、江戸時代から大事にされてきた道徳があります。まず、自分自身との関係(自己自身を省みて自分をコントロールしていくこと)、自分とまわりにいる他の人との関係(師親、

兄弟、友人との信頼や愛)、社会との関係(社会性)を築いていくことです。つまり、「修身齊家治國平天下」なのです。

このような精神性がしっかりと生きてこそ、各教科の授業でいろいろな工夫も実を結ぶわけですね。ここが変わったところが増えた、ここが減っただけではだめです。考え方の柱をしっかりと実践しないと、教育としては骨のない場当たりの教育になってしまいます。

移行措置期間のねらいと取り組み

「確かな学力」がついているだろうか、「言葉の力」はどうか、理数系学力はどうだろうか、などと考えると、今は待たない、しだと言えます。したがって、今回の移行措置では、実施できるところからすぐに前倒しを進めようという考えです。移行措置の内容が、今までと比べて速いテンポで進みます。

道徳、特別活動、総合的な時間は直ちに先行実施
道徳、特別活動、総合的な時間は教科書がないので新しい考え方で平成21年度から実施です。

算数、理科は教材を整備して先行実施
算数、理科は平成21年度から全面実施と同じような形でいきます。まず、時間数を来年から大幅に変え、新しい内容を取り入れて実施します。(資料1~3の表参照)

今回の改訂のように内容が増えるのは30年ぶりです。土台が十分でない上に、新しいものが加わる移行措置になるので、それだけ、子どもたちに負荷がかかるといえます。たとえば、4年生まで今までの内容で学習してきたのに、5年生ではその不足を補い、さらに新しい5年生の内容も学習しなければなりません。これを實現するためには、当然、条件整備が問題になります。新しい内容が入ってくると、新しい内容の教材が必要になってきます。また、授業

ます。さらに、各都道府県で、市町村の指導主事だけではなく、校長会の代表、現場の指導的先生への地方説明会を実施する計画を進めています。このように入念な形で実施しようとしているのは、前は基本的な考え方が現場まで届いていなかったという反省があるからです。

ズレないブレない今回の改訂の基礎的理解が大切です。「確かな学力」と「豊かな心」と「健やかな体」の全部が有機的に結びついているものが、「生きる力」です。「生きる力」は同じ考え方で、前回の「ゆとり」の中で、「と今回の、確かな学力を土台にして」では「ユアンス」が違ってきます。

「確かな学力」は知識・技能、思考力、関心・意欲のバランスです。知識・技能だけ、思考力だけ、関心・意欲だけのことではありません。このように理解がなければ、知識・技能が大事と強調されると、「確かな学力」とは反復練習のことだとなってしまう。関心・意欲が大事だからと、眼がキラキラして、いれれば、いい

みんなが生き生きしていれば、いいとか、極めて安易な解釈が広まった過去も反省しなくてはなりません。

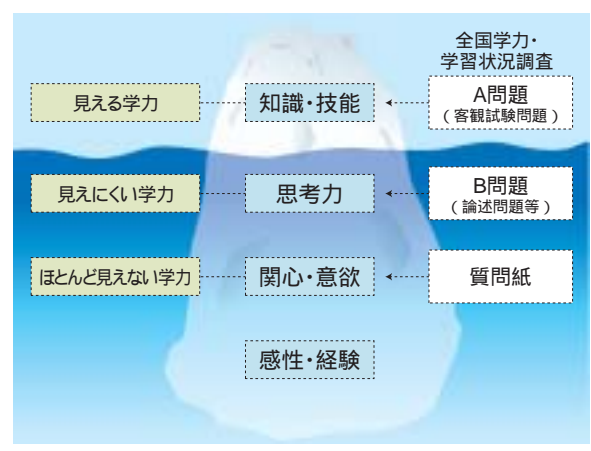
また、今回の改訂では、「言葉の力」を、「確かな学力」を身につけるときの最大の武器にしようとしています。

「言葉」を「コミュニケーション能力」とだけとらえては誤りです。伝え合いだけではなく、その前に認識の力、思考の力、判断の力なのです。母語としての言葉、日本語でものをどう認識するか、これを学校で深め、高めていこうとしています。

このように母語の力を強めていくことは、第二言語を身につけることは違います。だから、算数、理科、社会などの教科でも、「言葉」にこだわろうと言われているのです。

それぞれの教科でキーワードがあります。そうしたキーワードの理解を中核

確かな学力の氷山モデル



資料3 移行措置期間中に先行して指導する内容 【理科】

学年	領域	平成21年度	平成22年度
第3学年	B 生命・地球	(2) 身近な自然の観察 ア 身の回りの生物の様子 イ 身の回りの生物と環境とのかかわり	(2) 身近な自然の観察 ア 身の回りの生物の様子 イ 身の回りの生物と環境とのかかわり
	A 物質・エネルギー	(1) 物と重さ ア 形と重さ イ 体積と重さ (2) 風やゴムの働き ア 風の働き イ ゴムの働き	(1) 物と重さ ア 形と重さ イ 体積と重さ (2) 風やゴムの働き ア 風の働き イ ゴムの働き
第4学年	B 生命・地球	(1) 人の体のつくりと運動 ア 骨と筋肉 イ 骨と筋肉の働き 【内取3(3) 関節の働き】	(1) 人の体のつくりと運動 ア 骨と筋肉 イ 骨と筋肉の働き 【内取3(3) 関節の働き】
	A 物質・エネルギー	(2) 金属、水、空気と温度 ウ 水の三態変化	(2) 金属、水、空気と温度 ウ 水の三態変化
	B 生命・地球	(3) 天気の様子 ア 天気による1日の気温の変化【現行第5学年】	(3) 天気の様子 ア 天気による1日の気温の変化【現行第5学年】
第5学年	B 生命・地球	(2) 動物の誕生 イ 水中の小さな生物	(2) 動物の誕生 イ 水中の小さな生物
	A 物質・エネルギー	(3) 電流の働き ア 鉄心の磁化、極の変化 イ 電磁石の強さ【現行第6学年】	(3) 電流の働き ア 鉄心の磁化、極の変化 イ 電磁石の強さ【現行第6学年】
	B 生命・地球	(4) 天気の変化 ア 雲と天気の変化 (3) 流水の働き イ 川の上流・下流と川原の石	(4) 天気の変化 ア 雲と天気の変化 (3) 流水の働き イ 川の上流・下流と川原の石
第6学年	B 生命・地球	(1) 人の体のつくりと働き エ 主な臓器の存在 【内取3(2)イ 肺、胃、小腸、大腸、肝臓、腎臓、心臓】 (2) 植物の養分と水の通り道 イ 水の通り道 (3) 生物と環境 イ 食べ物による生物の関係	(1) 人の体のつくりと働き エ 主な臓器の存在 【内取3(2)イ 肺、胃、小腸、大腸、肝臓、腎臓、心臓】 (2) 植物の養分と水の通り道 イ 水の通り道 (3) 生物と環境 イ 食べ物による生物の関係
	A 物質・エネルギー	(3) てこの規則性 ア てこのつり合いと重さ イ てこのつり合いの規則性 ウ てこの利用 (4) 電気の利用 ア 発電・蓄電 イ 電気の変換 ウ 電気による発熱	(3) てこの規則性 ア てこのつり合いと重さ イ てこのつり合いの規則性 ウ てこの利用 (4) 電気の利用 ア 発電・蓄電 イ 電気の変換 ウ 電気による発熱 エ 電気の利用
	B 生命・地球	(5) 月と太陽 ア 月の形と太陽の位置 イ 月の表面の様子 【内取3(5) 地球から見た太陽と月の位置関係】	(5) 月と太陽 ア 月の形と太陽の位置 イ 月の表面の様子 【内取3(5) 地球から見た太陽と月の位置関係】

※赤字を追加して指導。

指導資料 PART31

新学習指導要領 改訂の要点

新旧対照表

この一冊で、総則・各教科・領域にわたる新学習指導要領の全容が見える!!

企画・編集:財団法人 総合初等教育研究所
発行:株式会社 文溪堂 (ご利用は、特約代理店が小社まで。)

A4判 本文2色
192ページ

定価 1,000円



資料2 移行措置期間中に先行して指導する内容 【算数】

学年	領域	平成21年度	平成22年度
第1学年	A 数と計算	(1) カ 簡単な3位数 (2) ウ 簡単な2位数の加法・減法	(1) カ 簡単な3位数 (2) ウ 簡単な2位数の加法・減法
	B 量と測定	(1) ア・イ 長さ、面積、体積の比較 (2) 時刻の読み方【現行第2学年】	(1) ア・イ 長さ、面積、体積の比較 (2) 時刻の読み方【現行第2学年】
第2学年	D 数量関係	(2) 個数を絵や図などで表す	(2) 個数を絵や図などで表す
	A 数と計算	(1) ア～エ 整数の表し方(3位数、4位数など) 【内取3(1) 1万も取り扱う】 (2) イ 簡単な3位数の加法・減法	(1) ア～エ 整数の表し方(3位数、4位数など) 【内取3(1) 1万も取り扱う】 オ 簡単な分数(1/2や1/4など) (2) イ 簡単な3位数の加法・減法
	B 量と測定	(3) ア 時間の単位(日、時、分)【現行第3学年】	(2) ア 体積の単位(ml、dl、l)と測定【現行第3学年】 (3) ア 時間の単位(日、時、分)【現行第3学年】
第3学年	C 図形	(1) イ 正方形、長方形、直角三角形 ウ 箱の形	(1) イ 正方形、長方形、直角三角形 ウ 箱の形
	A 数と計算	(1) ア～ウ 整数の表し方(万の単位など) 【内取3(1) 1億も取り扱う】 (2) ア～ウ 整数の加法・減法(3位数・4位数の加法・減法など) (3) ア～ウ 整数の乗法(2位数、3位数に2位数をかける乗法など)	(1) ア～ウ 整数の表し方(万の単位など) 【内取3(1) 1億も取り扱う】 (2) ア～ウ 整数の加法・減法(3位数・4位数の加法・減法など) (3) ア～ウ 整数の乗法(2位数、3位数に2位数をかける乗法など) (4) エ 除数が1位数で商が2位数の除法【現行第4学年】 (5) ア 小数の意味や表し方 イ 1/10の位までの加法・減法【現行第4学年】 (6) ア・イ 分数の意味や表し方 ウ 簡単な分数の加法・減法【現行第4学年】 【内取3(6) 小数0.1と分数1/10などを数直線を用いて関連付けて扱う】
	B 量と測定	(1) イ 重さの単位(g、kg)【内取3(7) 重さの単位(t)】	(1) イ 重さの単位(g、kg)【内取3(7) 重さの単位(t)】
第4学年	C 図形	(1) ア 二等辺三角形、正三角形 イ 角 ウ 円、球【現行第4学年】	(1) ア 二等辺三角形、正三角形 イ 角 ウ 円、球【現行第4学年】
	D 数量関係	(2) イ □などを用いた式	(2) イ □などを用いた式
	A 数と計算	(2) ウ 四則計算の結果の見積り 【和・差の見積りは現行第5学年、積・商の見積りは現行第6学年】 (5) ウ 小数×整数、小数÷整数 (7) そろばん(加法・減法)	(2) ウ 四則計算の結果の見積り 【和・差の見積りは現行第5学年、積・商の見積りは現行第6学年】 (5) ウ 小数×整数、小数÷整数 (6) ア 大きさの等しい分数 イ 同分母分数の加法・減法【現行第5学年】 (7) そろばん(加法・減法)
	B 量と測定	(1) ア 面積の単位(cm ² 、m ² 、km ²) 【内取3(5) 面積の単位(a、ha)】	(1) ア 面積の単位(cm ² 、m ² 、km ²) 【内取3(5) 面積の単位(a、ha)】
第5学年	C 図形	(1) ア 直線の平行や垂直 イ 平行四辺形、ひし形、台形【現行第5学年】 (2) ア 立方体、直方体 イ 直線や平面の平行や垂直【現行第6学年】 【内取3(6) 見取図、展開図】	(1) ア 直線の平行や垂直 イ 平行四辺形、ひし形、台形【現行第5学年】 (2) ア 立方体、直方体 イ 直線や平面の平行や垂直【現行第6学年】 【内取3(6) 見取図、展開図】
	D 数量関係	(3) ア 四則計算の性質(整数、小数など)【現行第5学年】	(3) ア 四則計算の性質(整数、小数など)【現行第5学年】
	A 数と計算	(4) 新4年2A (6) イ 同分母分数の加法・減法	(1) イ 約数、倍数【現行第6学年】 【内取3(1) 最大公約数・最小公倍数】 (4) 新4年2A (6) イ 同分母分数の加法・減法 ウ・エ 分数の大きさ、大小の比べ方 オ 異分母分数の加法・減法 カ 分数×整数、分数÷整数【現行第6学年】
	B 量と測定	(1) ア 三角形・平行四辺形・ひし形・台形の面積の求め方	(1) ア 三角形・平行四辺形・ひし形・台形の面積の求め方 (2) ア 体積の単位(cm ³ 、m ³) イ 立方体及び直方体の体積の求め方【現行第6学年】 ア 単位量当たりの大きさ【現行第6学年】
第6学年	C 図形	(1) ア 多角形、正多角形 イ 図形の合同 新4年2C (2) ア 立方体、直方体 イ 直線や平面の平行や垂直 【内取3(6) 見取図、展開図】	(1) ア 多角形、正多角形 イ 図形の合同 (2) ア 角柱や円柱【現行第6学年】 【内取3(3) 見取図、展開図】
	A 数と計算	新5年2A (4) オ 異分母分数の加法・減法	新5年2A (4) オ 異分母分数の加法・減法
	B 量と測定	(5) メートル法の仕組み	(5) メートル法の仕組み
	C 図形	新5年2C (1) イ 図形の合同 (1) ア 縮図や拡大図	(1) ア 縮図や拡大図
D 数量関係	(3) ア 文字を用いた式(a、xなど)	(3) ア 文字を用いた式(a、xなど) (5) 起こりうる場合	

※赤字を追加して指導。【用語・記号】、【算数的活動】は略。